

第3次「スポ柳都にいがた」プラン前期実施計画 令和5年度 進行管理調書

資料1

基本方針	施策指標	R4年度実績	R5年度目標	R5年度実績	評価	達成(未達成)理由・今後の方向性	新潟市スポーツ推進審議会 評価(ご意見・ご要望等)	
【基本方針1】 生涯スポーツ 社会の 実現	(1) 誰もが参加 できるス ポーツの 機会創出	1 卒業後にも運動やスポーツをした いと思う児童の割合(小5)	88.4%	87.3%	87.5%	達成	小学生などを対象としたスポーツ教室やアイスアリーナを活用した体験学習などを前年 度より拡充して実施し、指標の達成に繋げることができた。	
		2 卒業後にも運動やスポーツをした いと思う生徒の割合(中2)	81.5%	83.8%	80.7%	未達成	小学生に比べて、中学生向けの取組みが足りず、目標を達成することができなかった。 今後はこの年代向けの有効な取組みについて検討していきたい。また、中学生の部活 の地域移行が、新たなスポーツの魅力に気付くきっかけ、ひいてはスポーツの習慣化に 繋がるチャンスにもなると捉えており、地域の受け皿づくりや指導者の整備等が円滑に 進むよう、関係各所と連携して引き続き取り組んでいく。	
		3 週1日以上スポーツをする30・40代 の市民の割合	44%	46.6%	38.9%	未達成	新潟シティマラソンや自転車活用事業、早起き野球大会を開催するなど様々な年代に向 けた大会やイベントの機会の提供に努めたが、指標値の向上に至らず、目標を達成する ことができなかった。仕事・家事で忙しい中でも、身近なところから体を動かすきっかけに なる「ウォーキングチャレンジ」、「にいがた2kmシェアサイクル」などを引き続き実施する ほか、余暇の過ごし方としてスポーツが選ばれるよう、各大会・イベントのさらなる魅力向 上に努めていく。	
		4 週1日以上スポーツをする65歳以 上の市民の割合	56%	57.1%	58.1%	達成	身近なスポーツ施設の環境整備や、指定管理者などによるスポーツ教室の開催などス ポーツをする環境を整えたことで、目標を達成することができた。	
	(2) スポーツを 支える環境 づくり	5 スポーツ施設利用者数	308万人	272万人	325万人	達成	指定管理制度により所管するスポーツ施設の管理運営を行い、各区所管課、指定管理 者や関係機関と情報交換・連携しながらスポーツ施設の利用促進を図り、目標を達成す ることができた。 元日の能登半島地震により、複数の施設が被害を受け、一部施設では現在も利用でき ない状況が続いているが、早急に元のスポーツ環境を提供できるよう、復旧に努めてい く。	
		6 スポーツに関する情報発信が足り ないと感じる市民の割合	40%	38.2%	32.4%	達成	市民が様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツ施設の利用イベント、ス ポーツ団体の情報などを広報紙やホームページ、SNSなど幅広い媒体を通じて発信し、 目標を達成することができた。	
【基本方針2】 競技力の向 上、人材育成 の推進	(1) 選手・指導 者の育成	7 市内小中高生への全国大会等出 場激励金支給件数	125件	97件	125件	達成	新型コロナウイルスの感染症法上の5類移行(令和5年5月)に伴い、スポーツ活動の機会も回復 した。その結果、規制のない全国大会が通常開催され、また国際大会への出場者が増 加し、激励金の支給件数も増え目標を達成することができた。	
		8 スポーツ指導者研修会参加者数	100人	100人	131人	達成	指標は達成できたものの、研修目的に沿った講師の選定や、参加者募集の広報におけ る「指導者資質の向上」という主旨の明確化不足といった部分で、改善の余地があったと 捉えている。今後こうした点を見直し、さらなる参加者増に繋げていきたい。	
		9 障がい者スポーツ全国大会等参加 激励金支給件数	17件	6件	20件	達成	目標達成とともに、障がい者の競技スポーツへの志向意欲を高め、積極的な社会参加を 促進することに寄与した。	
【基本方針3】 スポーツを活 かした まちづくり	(1) スポーツを 通じた交流 の推進	10 主要スポーツイベント参加者数(新 潟シティマラソン、新潟シティライ ド、新潟ヒルクライムのエントリー 数)	7,960人	13,750人	11,333人	未達成	新潟シティマラソンの参加者は、前年比+3,362人と増加、新潟シティライド、新潟ヒルクラ イムともにコロナ禍前の規模に戻して開催したものの、指標の達成には届かなかった。要 因としてはマラソンの参加者募集時期が新型コロナ5類移行前だったことに加え、類似他 大会との差別化や魅力づくりの不足もあったと捉えている。R6年度開催に向け改善を図 り、さらなる参加者増加によって交流人口拡大、地域や経済の活性化に繋げていき たい。	
		11 主要スポーツイベント観戦者数 (ホームタウンチームのホーム戦※ の1試合あたり観戦者数) ※サッカー アルビレックス新潟、アル ビレックス新潟レディース	11,800人 (R3年度)	15,700人	22,501人	達成	スポーツの機運醸成や郷土への愛着が深まるよう、地元プロスポーツチーム等と連携 し、親子観戦招待やプロ選手による小中学生へのスポーツ教室・指導の開催に取り組ん だ。アルビレックス新潟がJ1に昇格した効果もあり、指標を達成できた。	
	12 主要スポーツイベント参加者数(新 潟シティマラソン、新潟シティライ ド、新潟ヒルクライムのエントリー 数)	7,960人	13,750人	11,333人	未達成	新潟シティマラソンの参加者は、前年比+3,362人と増加、新潟シティライド、新潟ヒルクラ イムともにコロナ禍前の規模に戻して開催したものの、指標の達成には届かなかった。要 因としてはマラソンの参加者募集時期が新型コロナ5類移行前だったことに加え、類似他 大会との差別化や魅力づくりの不足もあったと捉えている。R6年度開催に向け改善を図 り、より市民から愛されるイベントを目指すとともに、さらなる参加者増によってまちの賑 わい創出に繋げていきたい。		

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

◆ 基本方針の内容

○子どもから高齢者まで障がいの有無にかかわらず、誰もが生涯にわたって、スポーツ・レクリエーションを通じて、健康で豊かな生活を営むことができる取り組みを推進します。

○気軽にスポーツに親しみながら体力の向上や運動の習慣化に取り組んでもらえるよう、大会の運営や各種スポーツ教室の開催などに、トップアスリートや関係団体とも連携しながら取り組みます。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	R5実績値	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
I	卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う児童の割合(小5)	87.3% (令和5年度)	87.5%	87.7% (令和6年度)	88.1% (令和7年度)	88.5% (令和8年度)
II	卒業後にも運動やスポーツをしたいと思う生徒の割合(中2)	83.8% (令和5年度)	80.7%	84.7% (令和6年度)	85.6% (令和7年度)	86.5% (令和8年度)
III	週1日以上スポーツをする30・40代の市民の割合	46.6% (令和5年度)	38.9%	49.3% (令和6年度)	51.9% (令和7年度)	54.5% (令和8年度)
IV	週1日以上スポーツをする65歳以上の市民の割合	57.1% (令和5年度)	58.1%	58.2% (令和6年度)	59.3% (令和7年度)	60.5% (令和8年度)

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

① 子どものスポーツ推進

○生涯にわたってスポーツに親しみ豊かな生活を実現していくための基礎作りとして、幼児期から、いかに楽しく遊びを通して運動を体験していくかが重要です。
 ○スポーツの体験やきっかけづくり、成果を発揮できる機会の充実など関係団体と連携しながら取り組みます。
 ○子どもたちがさまざまな他者と関わり、その存在と頑張りを認めてくれる環境は重要であり、学校や地域コミュニティや家庭の関わりの中で、気軽にスポーツに親しみ楽しみながら体力向上、自ら興味や関心を持ち運動の習慣化につながるよう施策を展開します。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
1 子どもスポーツふれあい促進事業	小学生を対象にしたサッカー教室の開催、中学生とその指導者に対して地元プロ選手から指導等を実施してもらい、心身の健全育成と競技力・技術力等の向上を図ります。	I、II	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	サッカー教室参加人数 384人 サッカー指導者派遣人数 94人	5	R4年度までは、トークショー形式での教室開催だったが、R5年度は4年ぶりに、選手と一緒に入ったのサッカー教室を展開できた為。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	スポーツ振興課
2 氷上スポーツ体験学習推進事業	新潟市アイスアリーナで小学生等に氷上スポーツを体験させることで氷上スポーツ愛好者の裾野拡大を図るため、市内小学校等の校外活動時のバス送迎に係る経費と施設利用料金を助成します。	I	実施校数64校	実施校数 小学校65校 保育園等39校	5	令和5年度は保育園等にも実施を拡大したため、実施校数が大幅に増加した。	実施校数64校	スポーツ振興課
3 少年少女スポーツ大会の開催	児童の育成健全を目的として、昭和40年に始まり、令和5年度で59回を迎えます。大会を通じて心身の健康づくりと相互の親睦、コミュニケーション能力の育成が図られています。 競技:野球・サッカー・バスケットボール・バレーボール	I	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:70チーム バスケ:120チーム バレー:30チーム	エントリーチーム数 野球:65チーム サッカー:65チーム バスケ:112チーム バレー:28チーム	4	過去に参加経験のあるチームに対し、積極的に広報を仕掛けることで、概ね計画通りのチーム数を確保することができた。	エントリーチーム数 野球:60チーム サッカー:70チーム バスケ:120チーム バレー:30チーム	スポーツ振興課
4 氷上スポーツイベント開催事業	新潟市アイスアリーナの愛称を命名する権利を企業等に与えることで、企業名やブランド名等の広告機会を提供し、これにより得られる対価(命名権料)を財源に、氷上スポーツの普及を促進するイベントを開催します。また、全国の選手を中心とした競技会等を開催し、フィギュアスケートの発展と技術レベルの向上を目指します。	I	競技会参加者数 170人	アイスアリーナトロフィー参加者 135人 アイスホッケー大会117人 春のスケートフェスタ595人	5	令和5年度は新型コロナウイルス5類移行に伴い、参加者が前年度よりも増加した。	競技会参加者数 180人	スポーツ振興課
5 (公財)新潟市スポーツ協会補助金 体験会等推進事業	スポーツの普及振興を目的に、多くの子どもたちからスポーツに親しんでもらうため、気軽に参加できる体験教室等を通じて、子どもやその保護者に身体を動かす楽しさを伝えることにより、スポーツの裾野を広げることを目的に、加盟団体が実施する事業に対して経費の一部を補助します。	I	実施種目 7	実施種目 8	4	事業の趣旨に賛同し継続して申請する団体が多いほか、機関紙においてイベント実施状況のPRを行うなど加盟団体への周知を行った成果が出たものと思われる。	実施種目 7	(公財)新潟市スポーツ協会
6 体力向上ジャンプアップ事業	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果や子どもたちの実態から、学校ごとに体力や健康に関する課題を設定し、その解決を目指して指導方法を工夫したり委員会活動等とタイアップしたりして、学校独自の体力向上の取組を行います。	I、II	すべての小・中・中等教育学校等の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	すべての小・中・中等教育学校等の取組を諸観点で類別し学校別に集約し、各学校に情報提供を行った。	3	実態に応じた学校独自の体力向上の取組が着実に実行されている。	すべての小・中・中等教育学校等の取組を諸観点で類別し学校別に集約。情報提供。	学校支援課

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

②働き盛り・子育て世代のスポーツ推進

○仕事や家事、育児が忙しくなる働き盛り・子育て世代のスポーツ実施率は、他の年代に比べて低い傾向があります。自分に合った健康保持・増進の方法を具体的に知り、日常生活の中でできる取り組みを取り入れ、生活習慣病の予防、生涯を通じた健康保持・増進が重要です。スポーツをする楽しさや運動することの重要性に気付いてもらい、楽しみながら運動を継続できるよう、気軽に参加できるプログラムを充実するとともに、身近な場所で運動・スポーツに取り組める機会を提供します。

○また、20～30代の女性のスポーツ実施率は男性に比べて低い傾向があります。生涯にわたって楽しむことができる環境づくり、及び女性のスポーツへの参加促進策の検討に取り組みます。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
7 ウォーキングチャレンジ事業	働き盛り世代の運動習慣定着を図るため、事業所内でチームを組んで参加し、参加者自ら歩数を記録することを通して、歩く機会や歩数の増加にチャレンジします。また、健康づくりのきっかけとなるよう市民を対象としたウォーキングチャレンジを実施します。	Ⅲ、Ⅳ	参加事業所数:190事業所 参加者数(事業所・市民合計):6,000人	参加事業所数:217事業所 参加者数:7,376人	5	使用するアプリの登録者数が増え、本イベントの認知度も上がり、参加事業所数・参加者数共に目標以上に伸びた。	参加事業所数:前年度より増加 参加者数(事業所・市民合計):6,350人	健康増進課
再掲 25 スポーツ振興課ホームページの運用(再掲)	スポーツに関する施設、大会・イベント、団体などの情報について、市民への情報提供を行います。	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	アクセス数700,000件	-	0	ホームページ運用システム変更等の都合により、R5年度を通してのアクセス数集計ができなかった。R6年度以降は可能となる予定。	アクセス数710,000件	スポーツ振興課
再掲 26 (公財)新潟市スポーツ協会補助金 広報活動事業(再掲)	(公財)新潟市スポーツ協会及び協会加盟団体等の取り組みや活動内容について、スポーツの普及・振興ならびに市民から関心や理解を得るために、広報誌の発行やホームページによる情報発信を行います。	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	広報誌発行 ホームページ運営	広報誌発行 ホームページ運営	3	機関誌「躍動」の発行やホームページを通じ、事業活動や告知など情報発信を行っている。躍動については、政令市スポーツ協会ははじめ県内各市町村スポーツ協会や体育施設など広く配布し周知を図っている。	広報誌発行 ホームページ運営	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

③高齢者のスポーツ推進

○本市の健康寿命は、全国同様、男女ともに伸びている一方で、平均寿命と健康寿命には差があることから、健康上の問題で日常生活が制限される「健康でない期間」を短くすることが重要です。

○生涯にわたって健康を保持・増進していくために、日常生活で無理なく気軽に身体を動かし楽しみながら取り組める施策を推進します。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
8 シニアはつらつにいがた総おどり事業	本市の踊り文化を生かして制作した「総おどり体操」について、講習会や指導者養成講座の開催、指導スタッフの派遣、「にいがた総おどり」などの各種イベントへの参加を実施します。	IV	講習会等参加者数 延6,445人	講習会等参加者数 延6,556人	5	・新型コロナウイルスが5類感染症に移行し、参加者数に制限が無くなったため。 ・既存の参加者からの口コミで新たな参加者が増加したため。	講習会等参加者数 延7,215人	高齢者支援課
9 全国健康福祉祭事業	にいがたねりんピック等により選考した団体・個人が新潟市代表として全国健康福祉祭(ねりんピック)に参加します。	IV	派遣人数 60人	派遣人数 54人	2	・開催地が遠方で、競技団体から参加選手の推薦が少なかったため。	派遣人数 67人	高齢者支援課

④障がい者スポーツの推進

○市は、障がいの有無にかかわらず、全ての市民が互いに人格と個性を尊重しあいながら、安心して暮らすことのできる共生社会を目指しています。

○障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめる障がい者スポーツの普及・促進を図るとともに、障がいのある方が身近な場所で自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、関係団体と連携しながら取り組みます。

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
10 「目指そう、支えようパラリンピアン」障がい者スポーツ推進事業	共生社会の実現、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツに取り組むきっかけや競技力の向上及び障がいの理解促進のため、パラリンピアンによる講演会や障がい者スポーツの体験会を開催します。 また、障がい者スポーツの普及促進のため、競技用具の貸出事業を実施します。 併せて、障がい者スポーツのナショナルチームによる合宿を誘致・支援します。	I、II、III、IV	講演会・体験会の参加者数 20人	講演会・体験会の参加者数 10人	2	令和5年度は、市内8か所の体育施設で実施しているポッチャやフライングディスクの貸出人数が延べ3,800人であり、競技理解が進んだため、体験会に参加する人数が想定より少なかったもの。	講演会・体験会の参加者数 25人	スポーツ振興課
11 新潟市障がい者大運動会	障がいのある人もない人も一緒にスポーツやレクリエーションを行うことを通じ、障がいのある人の社会参加を促進し、障がいや障がいのある人への理解を深めるため「新潟市障がい者大運動会」を開催します。	I、II、III、IV	開催について再検討	再検討の未実施	2	業務の都合により再検討の場を設定できなかった。	開催について再検討	障がい福祉課

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

⑤スポーツイベント・教室の充実開催

○スポーツイベントは、参加者の健康の保持・増進はもとより、市民との交流や地域の活性化にも大きく貢献します。
 ○地域で気軽に参加できるものから、新潟シティマラソンなど全国規模の大会まで、市民のニーズを把握しながら積極的に開催するほか、トップアスリートや関係団体と連携し、これまで参加したことがない人へのきっかけづくりや、スポーツへの興味・関心を高め、スポーツ参画人口を増やすよう取り組みます。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
再掲1 子どもスポーツふれあい促進事業(再掲)	小学生を対象にしたサッカー教室の開催、中学生とその指導者に対して地元プロ選手から指導等を実施してもらい、心身の健全育成と競技力・技術力等の向上を図ります。	I、II	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	サッカー教室参加人数 384人 サッカー指導者派遣人数 94人	5	R4年度までは、トークショー形式での教室開催だったが、R5年度は4年ぶりに、選手が一緒に入っているサッカー教室を展開できた為。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	スポーツ振興課
12 新潟シティマラソンの開催	フルマラソン、ファンランに加え、年齢や障がいの有無に関わらず参加できる種目、ユニバーサルランを実施することで、市民の健康保持・増進を図ります。また、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を望めるコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ります。	I、II、III、IV	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	エントリー者数 ・マラソン:6,852人 ・ファンラン:3,169人 ・ユニバーサルラン:435人	2	・エントリー期間がコロナ5類移行前と重なっていた。 ・飽和化する全国のマラソン大会の中で、差別化した大会作りが不足していた。	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	スポーツ振興課
13 早起き野球大会の開催	早起き野球を通して、市民が積極的にスポーツに親しみ、スポーツ振興と相互の親睦を図ることにより、豊かな社会生活に寄与することを目的に開催します。 種目:1部・2部・3部・壮年1部・壮年2部 の計5種目	III、IV	エントリーチーム数 100チーム	エントリーチーム数 85チーム	2	早起き野球後の会社までの通勤時間が間に合わないことや野球人口の減少、チーム員の高齢化などにより想定を下回ったもの。	エントリーチーム数 100チーム	スポーツ振興課
14 自転車活用事業	新潟シティライド、新潟ヒルクライムを開催し、自転車を活用しながらスポーツの振興に寄与するとともに、市民の健康保持・増進、交流人口の拡大を図ります。	I、II、III、IV	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:482人 ミドルライド:106人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 239人	2	シティライド、ヒルクライムともに自転車を活用した競技であり、マラソンなどと比較すると競技参加へのハードルが高く、新規参加者の増加に繋がらないため、想定を下回ったもの。	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	スポーツ振興課
15 (公財)新潟市スポーツ協会補助金	スポーツ大会等開催事業 「市民総合体育祭」、「市民サッカー大会」、「市民綱引き大会」、「市民親善ゴルフ大会」、「スポーツ体験フェスタ」を開催し、市民の健康増進、参加者相互の親睦、スポーツの裾野拡大を図ります。	I、II、III、IV	【体育祭】 開催種目数 春季:25種目 秋季:30種目 【サッカー大会】 エントリーチーム数 60チーム 参加者数 800人 【綱引き大会】 エントリーチーム数 一般の部:15チーム 小学生の部:40チーム	【体育祭】 開催種目数 春季:25種目 秋季:32種目 【サッカー大会】 エントリーチーム数 62チーム 参加者数 802人 【綱引き大会】 エントリーチーム数 一般の部:25チーム 小学生の部:61チーム	5	新型コロナウイルス5類移行後、各種大会の開催目標値を上回った。 特に、4年度の綱引き大会では感染拡大防止のため、小学生の部のみの実施としたが、前大会は小学生の部・一般の部の両種別を4年振りに実施するため、早期のうち実行委員会を開催し、地域や参加チームに周知を図ったことにより史上最多のチーム数・参加者数となり関係者を含め1,000人を超える規模になり冬場における一大スポーツイベントとなった。	【体育祭】 開催種目数 春季:25種目 秋季:30種目 【サッカー大会】 エントリーチーム数 60チーム 参加者数 800人 【綱引き大会】 エントリーチーム数 一般の部:15チーム 小学生の部:40チーム	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(1) 誰もが参加できるスポーツの機会創出

⑥暮らしの中での健康づくり

○生涯スポーツ社会を実現するためには、スポーツの持つ「健康に良い」という価値を、実践することで高め、それを習慣づけることが大切です。

○ウォーキングやジョギング、ランニングをはじめ、通勤や通学など日常の暮らしの中で、自然と体を動かし、健康になれるまちづくりを推進します。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
16 公共交通の強化及び利用促進	過度な自動車利用から公共交通利用への転換を図り、公共交通利用による外出機会の増加を促す施策を展開します。	Ⅲ、Ⅳ	路線バスの利用者数 1,937万人/年	—	0	現在、バス事業者が令和5年度のバス利用者数を集計中であり、現時点では把握できないため。	路線バスの利用者数 2,027万人/年	都市交通政策課
17 にいがた2kmシェアサイクル	まちなかの回遊性向上や公共交通の補完等を目的に、運営事業者と協働でシェアサイクルを運用します。	Ⅲ、Ⅳ	回転率 0.8回転/日	回転率 1.37回転/日	5	運営事業者との協働により、事業規模を電動アシスト付自転車170台、ポート38個所に拡大して運用を行い、目標を大きく上回る利用回転率を達成した。	回転率 1.15回転/日	都市交通政策課

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

◆ 基本方針の内容

○スポーツと地域の関わり、スポーツの多様化や少子化による影響など、取り巻く環境の変化に対応しながら、関係者と共にスポーツ環境の充実や指導者の育成など、ハード・ソフト両面から市民のスポーツ活動を支えます。

○医科学など関連分野との連携も踏まえながら、スポーツ実施や健康増進に資する取り組みを推進します。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	R5実績値	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
I	スポーツ施設利用者数	272万人 (令和5年度)	325万人	288万人 (令和6年度)	303万人 (令和7年度)	318万人 (令和8年度)
II	スポーツに関する情報発信が足りないと感じる市民の割合	38.2% (令和5年度)	32.4%	36.3% (令和6年度)	34.4% (令和7年度)	32.5% (令和8年度)

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

①スポーツを支える組織(スポーツ推進委員・スポーツ振興会・スポーツ少年団・スポーツボランティア等)の育成・支援

○市民が気軽にスポーツに親しみ楽しむためには、身近な地域でスポーツに取り組める環境の整備が重要です。スポーツ推進委員やスポーツ振興会、スポーツ少年団等の地域のスポーツ組織は、市民が生涯にわたってスポーツに参加できる基盤となるとともに、地域社会の再生においても重要な意義を持つものと考えられます。

○市民が主体的に参画する地域のスポーツを支える組織及びスポーツボランティア等の育成・支援に取り組み、スポーツを地域に根付かせ、自主的なスポーツ活動を活性化させていくほか、スポーツ活動を支えるスタッフ・ボランティアの必要性や活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充に取り組みます。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
18 スポーツ推進委員の活動推進	スポーツ振興会など地域におけるスポーツ活動の企画・調整役を担い、新潟シティマラソンをはじめとする全市の事業において役員として活動する、スポーツ推進委員(各小学校区に数名が配置されており、令和3年4月現在257名が活動)の資質向上を目的に、各種研修会を開催します。	—	研修会開催数 2回 参加者数 計200人	研修会開催数 2回 参加者数 計211人	4	新年研修会・新任研修会を実施し目標を上回った。	研修会開催数 2回 参加者数 計200人	スポーツ振興課
19 スポーツ振興会の育成・支援	地域での「生涯にわたるスポーツ活動の推進」の要であるスポーツ振興会において、組織の中心的な役割を担うスポーツ推進委員等を対象に、資質向上や的確な能力を身に付けるための研修会を開催するなどスポーツ振興会の育成・支援を行います。	—	研修会開催数 1回 参加者数 160人	研修会開催数 1回 参加者数 131人	2	スポーツ振興課より「第3次スポ柳都にいがたプラン」について、学校支援課より「中学生のための地域運動活動・文化活動」についての講演を行った。地域運動・文化活動の講演では、グループディスカッションを実施し、今後想定される役割等の情報共有や意見交換を行い、有意義な研修会となったといえる。	研修会開催数 1回 参加者数 160人	スポーツ振興課
20 スポーツボランティアの育成	新潟シティマラソンをはじめ各種スポーツイベントに必要な人材を発掘・養成します。	—	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人	730人	4	コロナ5類移行に伴い、新規学校含めた依頼ができた。通常ボランティアだけでなく、応援ボランティア等も注力し、大会の盛り上げに寄与した。	シティマラソン学生・企業・一般公募ボランティア数 600人	スポーツ振興課
21 (公財)新潟市スポーツ協会補助金	スポーツ少年団の普及育成及び活性化を図り、青少年の健全育成に資するため、登録業務や大会等の事業を実施します。	—	登録団数 115団体	登録団数 111団体	2	少子化等の影響により、登録チーム数は減少傾向にある。登録人数・有資格指導者数は前年比に対して、やや増としており体験会や講習会など通じ普及活動の効果もあったものとする。	登録団数 115団体	(公財)新潟市スポーツ協会

②市民から愛される指導者の養成

○生涯スポーツ社会を実現するためには指導者の育成、資質向上の取り組みが不可欠です。運動をする人の喜びや感動を自分のことのように感じ、心や身体の痛みも感じ取れる感受性を持ち、常に指導内容・方法を工夫・改善する努力を怠らない研究心を備え、市民を愛し市民から愛される指導者を養成します。

◆ 主な事業

再掲 36	新潟市「スポ柳都にいがた」指導員養成研修会(再掲)	子ども達がスポーツ・レクリエーション活動を通し、豊かな心を育み、生涯に渡って身体を動かすことの楽しさや喜びを提供できる指導者・支援者としての資質の向上を図ります。	—	参加者数 100人	131人	4	参加者数の目標は達成できたが、参加者募集時に研修会の主旨を明確にした広報が不足していた等の課題が残った。	参加者数 110人	スポーツ振興課
再掲 37	(公財)新潟市スポーツ協会補助金	本市の競技力の向上を図るため、ジュニア強化に携わる指導者や関係者など市民を対象とした講習会を開催します。	—	講習会開催数 3回	講習会開催数 2回	2	学ぶ機会の拡充を図り計画したが、予定していた講師のスケジュールや他の事業間との日程などにより2回の開催となった。	講習会開催数 3回	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針1 生涯スポーツ社会の実現

(2)スポーツを支える環境づくり

⑤子どもを取り巻くスポーツ環境の変化への対応

○中学生などの青少年に対する部活動改革を踏まえ、子どもたちが地域において多種多様なスポーツを安全・安心に実施できるような環境の構築に向けて関係団体と連携しながら取り組みます。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
27 新潟市の中学生のための地域運動・文化活動整備事業	地域クラブ活動の充実に向け、仕組みの整備、運営団体の充実、指導者の配置支援を実施します。	—	運営団体、指導者の整備、依頼。生徒への紹介。モデル団体への支援(9団体27クラブ)	国の委託事業(実証事業)として27クラブへ支援	3	予算上限まで実施した結果、27クラブへの支援となった。	運営団体、指導者の整備、依頼。生徒への紹介。前年度の団体数以上のモデル団体への支援	学校支援課
28 学校開放事業	生涯スポーツの振興を図ることを目的として、学校教育に支障のない範囲内で、市立の学校施設(体育館、武道場等)を開放します。	—	164校で実施(小106・中56・東特支・明鏡高)	164校で実施(小106・中56・東特支・明鏡高)	3	当該事業に対して学校の理解・協力があり、前年度と同様に小中学校は市内全校を開放できた。	164校で実施(小106・中56・東特支・明鏡高)	生涯学習推進課

⑥医科学など関連分野との連携

○子どもから高齢者まで障がいの有無にかかわらず、あらゆる年代、対象が、より安全に安心して、そして効果的にスポーツに取り組むために、医科学などの関連分野と連携し、スポーツを通じた健康増進を推進します。

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
29 (公財)新潟市スポーツ協会補助金	目指せオリンピック! 医科学サポート事業	—	スポーツトレーナー派遣 競技団体数4団体	スポーツトレーナー派遣 競技団体数4団体	3	中央競技団体から強化指定選手として実績のある卓球競技をあらたに加え、4団体とした。SJ事業での技術指導のほか、選手の傷害予防などサポートを行う。	スポーツトレーナー派遣 競技団体数4団体	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1)選手・指導者の育成

◆ 基本方針の内容

- 新潟から世界へ羽ばたく選手を育成し、世界を目指すスポーツ文化の発信地となるよう、競技力の向上を推進します。
- 将来の活躍が期待されるジュニア選手の育成・強化や、指導者の育成・資質向上、障がい者の競技スポーツの普及促進を図ります。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	R5実績値	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
I	市内小中高生への全国大会等出場激励金支給件数	97件 (令和5年度)	125件	103件 (令和6年度)	109件 (令和7年度)	115件 (令和8年度)
II	スポーツ指導者研修会参加者数	100人 (令和5年度)	131人	100人 (令和6年度)	100人 (令和7年度)	100人 (令和8年度)
III	障がい者スポーツ全国大会等参加激励金支給件数	6件 (令和5年度)	20件	6件 (令和6年度)	7件 (令和7年度)	7件 (令和8年度)

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1)選手・指導者の育成

①ジュニアを主体とした競技力向上施策の推進

○小・中・高校生にとって、競技力の向上への取り組みは、自主性・自立性や克己心、フェアプレーの精神、コミュニケーション能力の育成や思いやりの心を培うなど、人間形成に大きく寄与するものです。また、活躍する選手の姿は、市民に夢や感動、希望や勇気を与えるとともに、本市を国内外にアピールする格好の機会ともなります。

○新潟と世界をつないでくれる礎となる、次世代アスリートの発掘・育成やプロ選手の輩出を目指し、本市の競技力向上を担うスポーツ協会をはじめスポーツ関係団体等との医科学連携を図りながら、新潟から世界に羽ばたく選手の育成を目標に強化活動に取り組みます。

5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
30	スポーツの国際大会等出場者激励金	I	実施	・国体出場者 101人 ・国際大会出場者 30人 (うち小・中・高校生5人) ・小・中・高校生 全国大会出場者 482人 ・障がい者スポーツ 35人 (うち小・中・高校生12人) 計 648人(125件) ※いずれも延べ人数	3	コロナが明け、国際大会への出場者が増加(昨年比+29)したとともに、全国大会も規制なく通常開催したことにより出場者・支給件数が増加(昨年比+72)した。	実施	スポーツ振興課
31	氷上スポーツ選手強化事業	I	実施	交付実施	3	計画、目標通り交付を実施した。	実施	スポーツ振興課
32	氷上スポーツ教室事業	I	氷上スポーツ教室事業 実施数 5回	氷上スポーツ教室事業 実施数 6回	3	親子向け、初心者向け等、様々な対象に向けて計画通り講習会等を開催することができた。	氷上スポーツ教室事業 実施数 5回	スポーツ振興課
33	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 ジュニア強化事業	I	実施数 27団体	実施数 27団体	3	ジュニア選手の競技水準向上など継続的に行うため、実施団体と連携を図り選手の育成に取り組んでいる。	実施数 27団体	(公財)新潟市スポーツ協会
34	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 にいがたスーパージュニア育成事業	I	育成事業数 4事業	育成事業数 4事業	3	中央競技団体から強化指定選手として実績のある卓球競技をあらたに加え、4団体とした。オリンピックや国際大会の選手輩出に向け強化を図る。	育成事業数 4事業	(公財)新潟市スポーツ協会

②指導者の育成、資質向上の取り組み

○子どもたちにはスポーツに取り組むことで、技術の向上だけでなく、楽しさや喜び、心の豊かさや生きがいを感じてもらい、指導者は子どもたちの発育・発達・技能レベルや志向に立脚し、活動におけるマナーやエチケットに関する指導を行いながら子どもたちとの良好な関係を構築することが求められます。

○我が国におけるスポーツ指導体制は、日本スポーツ協会や加盟競技団体が公認スポーツ指導者として地域レベルからトップレベルまでさまざまな対象に応じた指導者を養成しています。本市における指導者の育成・資質向上の取り組みは、その補完的な役割を果たすとともに、スポーツ活動を通じ、豊かな心を育み、生涯に渡って身体を動かすことのできる楽しさや喜びを提供できる質の高い指導者の育成、支援を目指すこととします。

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
35	スポーツと音楽功労者表彰事業	—	実施	実施済み	3	文化政策課と連携し、予定通り実施することができた。	実施	スポーツ振興課
36	新潟市「スポ柳都にいがた」指導員養成研修会	II	参加者数 100人	131人	4	参加者数の目標は達成できたが、参加者募集時に研修会の主旨を明確にした広報が不足していた等の課題が残った。	参加者数 110人	スポーツ振興課
37	(公財)新潟市スポーツ協会補助金 スポーツ指導者研修会	II	講習会開催数 3回	講習会開催数 2回	2	学ぶ機会の拡充を図り計画したが、予定していた講師のスケジュールや他の事業間との日程などにより2回の開催となった。	講習会開催数 3回	(公財)新潟市スポーツ協会

基本方針2 競技力の向上、人材育成の推進

(1)選手・指導者の育成

③障がい者の競技スポーツ推進

○東京2020パラリンピック競技大会で本市ゆかりの選手が活躍するなど、障がい者スポーツに対する人々の関心が広がり、競技スポーツとしての強化と普及を図られることが期待されています。
○障がい者スポーツに関わる関係団体、医科学関係者、既存のスポーツ団体が連携し、競技スポーツの推進に取り組みます。

5:計画・目標を上回った
4:計画・目標を少し上回った
3:計画・目標とおり達成
2:計画・目標を少し下回った
1:計画・目標を大きく下回った
0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
38 障がい者スポーツ全国大会等参加激励金	障がい者の競技スポーツへの志向意欲を高めるとともに、積極的な社会参加を促進するため、障がい者スポーツの全国大会等に出場する選手に激励金を支給します。	Ⅲ	実施	・国体 20人 ・障がい者スポーツ 35人 (うち小・中・高校生12人) 計55人(20件) ※いずれも延べ人数	3	例年と大きな変化は見られなかったものの、前年比で支給人数が減少する結果となった。(R4国体:24人、障がい者スポーツ:37人)	実施	スポーツ振興課
39 障がい者スポーツ大会関連事業	新潟県とともに新潟県障害者スポーツ大会を開催するほか、全国大会への選手派遣を行うなど、障がい者スポーツの競技力の向上を図ります。	Ⅲ	【県大会開催】 参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人 【全国大会派遣】 個人競技 18人派遣	【県大会開催】 参加者数 個人競技:7種目・350人 【全国大会派遣】 個人競技 20人派遣	2	団体競技は個人競技と比べ人数条件があり、参加のハードルが高いため、想定より下回ったもの。	【県大会開催】 参加者数 個人競技:7種目・250人 団体競技:5種目・160人 【全国大会派遣】 個人競技 18人派遣	スポーツ振興課

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(1)スポーツを通じた交流の推進

◆ 基本方針の内容

○新潟市の持つ魅力を活かした、国際・全国大会や合宿の誘致、イベントなどの開催により、スポーツを通じた交流を推進し、地域や経済の活性化につなげます。

◆ 施策指標

指標名	目標(令和5年度)	R5実績値	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
I 主要スポーツイベント参加者数(新潟シティマラソン、新潟シティライド、新潟ヒルクライムのエントリー数)	13,750人 (令和5年度)	11,333人	13,750人 (令和6年度)	13,750人 (令和7年度)	13,750人 (令和8年度)

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(1)スポーツを通じた交流の推進

①文化・スポーツコミッションと一体となった大会・合宿等の誘致

○本市は、国内外および市内主要スポーツ施設との交通アクセスが容易であるほか、通年型のアイスアリーナを有し、宿泊施設が充実しているなど、スポーツ環境が整った都市として、大会・合宿等の受け入れ実績を積み重ねてきました。これまでに、フィギュアスケートロシア代表や空手フランス代表、女子硬式野球の日本代表など、国内外ナショナルチームの合宿等の誘致により、競技団体等から高評価をいただいています。
 ○合宿・大会の誘致やスポーツイベントは、多くの誘客を実現するとともに、より多くの人々がスポーツを楽しむことで、様々な人や地域との交流を深めることができます。また、市民のスポーツへの関心を高め、地域の活性化、経済効果にもつながるものです。
 ○国や、日本オリンピック委員会、中央競技団体等の情報を収集し、県や「新潟市文化・スポーツコミッション」と連携をとりながらナショナルレベルの大会や合宿等の誘致を積極的に推進します。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
再掲12 新潟シティマラソンの開催(再掲)	フルマラソン、ファンランに加え、年齢や障がいの有無に関わらず参加できる種目、ユニバーサルランを実施することで、市民の健康保持・増進を図ります。また、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を望めるコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ります。	I	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	エントリー者数 ・マラソン:6,852人 ・ファンラン:3,169人 ・ユニバーサルラン:435人	2	・エントリー期間がコロナ5類移行前と重なっていた。 ・飽和化する全国のマラソン大会の中で、差別化した大会作りが不足していた。	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	スポーツ振興課
再掲14 自転車活用事業(再掲)	新潟シティライド、新潟ヒルクライムを開催し、自転車を活用しながらスポーツの振興に寄与するとともに、市民の健康保持・増進、交流人口の拡大を図ります。	I	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:482人 ミドルライド:106人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 239人	2	シティライド、ヒルクライムともに自転車を活用した競技であり、マラソンなどと比較すると競技参加へのハードルが高く、新規参加者の増加に繋がらないため、想定を下回ったもの。	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	スポーツ振興課
40 国際・全国大会等誘致に向けた合宿受入事業	トップレベルの技に市民が触れる機会を提供することでのスポーツの振興や、来訪者によるにいがたの魅力を発信することでの交流人口の拡大や地域活性化を図るため、国際・全国規模の大会やオリンピック・パラリンピック競技大会など様々な国際大会におけるナショナルチーム事前合宿を誘致します。	—	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2	国際・全国規模の大会数 6 ナショナルチーム合宿数 0	2	全国規模の大会誘致数は目標を上回ったが、ナショナルチームの合宿数については、市文化・スポーツコミッションを通じて、中央の競技団体に働きかけをしていたものの、大きな国際大会もなかったことから、目標値に至らなかった。	国際・全国規模の大会数 1 ナショナルチーム合宿数 2	スポーツ振興課
41 国際ユースサッカーin新潟の開催	競技力向上と国際交流を目的に開催するU-17代表の国際大会です。平成9年度から開催されており、過去23回の開催を誇り、海外2チーム、日本代表、新潟選抜の4チームによる総当たり戦で競われます。	—	開催回数 1回	開催回数 1回	3	県や県サッカー協会と連携し、予定とおり開催することができた。	開催回数 1回	スポーツ振興課

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(2) スポーツの魅力を活かした愛着の醸成と賑わいづくり

◆ 基本方針の内容

○地元プロスポーツチームをはじめ、スポーツ団体などとの連携により、観戦や社会貢献活動などを通じスポーツに親しみ新潟市への愛着を深めてもらうとともに、賑わいのあるまちづくりにつなげます。

◆ 施策指標

	指標名	目標(令和5年度)	R5実績値	目標(令和6年度)	目標(令和7年度)	目標(令和8年度)
I	主要スポーツイベント観戦者数(ホームタウンチームのホーム戦の1試合あたり観戦者数)	15,700人 (令和5年度)	22,501人	17,500人 (令和6年度)	19,500人 (令和7年度)	21,600人 (令和8年度)
II	主要スポーツイベント参加者数(新潟シティマラソン、新潟シティライド、新潟ヒルクライムのエントリー数)	13,750人 (令和5年度)	11,333人	13,750人 (令和6年度)	13,750人 (令和7年度)	13,750人 (令和8年度)

基本方針3 スポーツを活かしたまちづくり

(2)スポーツの魅力を活かした愛着の醸成と賑わいづくり

①地元プロスポーツチームとの連携

○本市は、スポーツの振興と青少年の健全育成、市民の連帯感の醸成と地域の活性化を目的にアルビレックス新潟をはじめとした地元プロスポーツチームを支援しています。その存在は、市民に大きな夢や感動を与え、国内外に本市の魅力が大きく発信しています。

○また、地元プロスポーツチームのホームタウンとして、まちの景観にスポーツを取り入れるなど、スポーツの機運醸成や郷土への愛着を深めることへと繋がります。

○競技力の向上にも貢献し、世界に羽ばたくトップアスリートも誕生しています。プロスポーツチームなどトップアスリートの技術や経験を地域に還元することは、地域スポーツの活性化と裾野の拡大、次世代アスリートの発掘・育成などにもつながります。このような好循環の創出に向け、地元プロスポーツチームと地域との連携・協働を推進します。

5:計画・目標を上回った
 4:計画・目標を少し上回った
 3:計画・目標とおり達成
 2:計画・目標を少し下回った
 1:計画・目標を大きく下回った
 0:評価不能

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
42 スポーツ観戦招待事業	小中学生とその保護者を対象に、地元プロスポーツチームの試合を観戦することにより、夢と感動を共有し、青少年の健全育成とスポーツ文化の醸成を図ります。	I	サッカー観戦招待者数 8,700人 野球観戦招待者数 122組 バスケットボール観戦招待者数 90組	サッカー観戦招待者数 11,322人 野球観戦招待者数 123組 バスケ観戦招待者数 170組	5	新規観戦の割合が増加したことで、これまでよりも広くプロスポーツ観戦の機会を確保できるようになったため。	サッカー観戦招待者数 8,700人 野球観戦招待者数 122組 バスケットボール観戦招待者数 90組	スポーツ振興課
再掲1 子どもスポーツふれあい促進事業(再掲)	小学生を対象にしたサッカー教室の開催、中学生とその指導者に対して地元プロ選手から指導等を実施してもらい、心身の健全育成と競技力・技術力等の向上を図ります。	I	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	サッカー教室参加人数 384人 サッカー指導者派遣人数 94人	5	R4年度までは、トークショー形式での教室開催だったが、R5年度は4年ぶりに、選手が一緒に入っているサッカー教室を展開できた為。	サッカー教室参加者数 300人 サッカー指導者派遣数 94人	スポーツ振興課

②スポーツを活用した賑わいづくり

○地元プロスポーツチームの試合観戦や、新潟シティマラソンをはじめとするスポーツイベントの開催等により、街なかへの回遊性を高めるなど、交流人口の拡大及びまちの賑わい創出に取り組みます。

◆ 主な事業

事業名	事業概要	対応する施策指標	R5計画・目標	R5実績	自己評価	理由・要因	R6計画・目標	担当
再掲12 新潟シティマラソンの開催(再掲)	フルマラソン、ファンランに加え、年齢や障がいの有無に関わらず参加できる種目、ユニバーサルランを実施することで、市民の健康保持・増進を図ります。また、萬代橋や榎谷小路などの市街地や新潟ならではの水辺を望めるコースとすることで、本市の魅力発信や交流人口の拡大を図ります。	II	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	エントリー者数 ・マラソン:6,852人 ・ファンラン:3,169人 ・ユニバーサルラン:435人	2	・エントリー期間がコロナ5類移行前と重なっていた。 ・飽和化する全国のマラソン大会の中で、差別化した大会作りが不足していた。	エントリー者数 ・マラソン:9,000人 ・ファンラン:3,000人 ・ユニバーサルラン:400人	スポーツ振興課
再掲14 自転車活用事業(再掲)	新潟シティライド、新潟ヒルクライムを開催し、自転車を活用しながらスポーツの振興に寄与するとともに、市民の健康保持・増進、交流人口の拡大を図ります。	II	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:482人 ミドルライド:106人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 239人	2	シティライド、ヒルクライムともに自転車を活用した競技であり、マラソンなどと比較すると競技参加へのハードルが高く、新規参加者の増加に繋がらないため、想定を下回ったもの。	【シティライド】 エントリー者数 ロングライド:600人 ミドルライド:100人 ショートライド:50人 【ヒルクライム】 エントリー者数 600人	スポーツ振興課
43 プロ野球招致推進事業	官民が一体となった「プロ野球新潟招致委員会」により、プロ野球公式戦を招致することで、スポーツの振興や交流人口の拡大・地域活性化、本市を全国にアピールすることができます。プロ野球の観戦機会を提供するとともに、開催機運醸成のため、プロ野球監督や選手OBによるトークイベント等を開催します。	-	プロ野球公式戦開催数 1試合 トークイベント等の開催数 1回	プロ野球公式戦開催数 1試合 トークイベント等の開催数 1回	3	県や関係団体と連携し、予定とおり開催することができた。	プロ野球公式戦開催数 1試合 トークイベント等の開催数 1回	スポーツ振興課